



## 追悼文(葉山幸嗣准教授追悼号)

著者	武田 巧
雑誌名	和光経済
巻	52
号	1
ページ	iii-iii
発行年	2019-12
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1073/00004693/">http://id.nii.ac.jp/1073/00004693/</a>

## 追 悼 文

明治大学 政治経済学部 教授 武 田 巧

葉山先生の訃報が届いたのは、本年1月15日の明治大学政治経済学部経済学科会議終了後のことでした。その日の学科会議は2019年度の非常勤講師人事を議題とし、特別研究期間中のマクロ経済学とミクロ経済学の代講を葉山先生にお願いした私が主査として審査報告を済ませ、全員一致で、葉山先生を2019年度に本学にお迎えすることを承認していました。訃報を知らされたのは、その後の別の会議の始まる前でした。「まさか…」と言葉を発したことを記憶しています。

大学院生の葉山先生との出会いは2001年のことでした。1992年4月から8年間、和光大学経済学部（当時）でお世話になった後、私は2000年4月に明治大学に移りました。大学院の講義を担当したのは翌年からでしたが、その時に私の大学院初講義を履修してくれた4名の内の1人が葉山先生でした。とても物静かで、穏やかな性格の好青年との印象を持ちました。彼は明治大学法学部で国際法の間宮勇教授のゼミナールに所属しましたが、大学院は政治経済学研究科を選択し、近代経済学担当の増澤俊彦教授の指導の下、学究の道を歩み始めました。法学部出身の彼が修士時代から一貫して興味を持っていたのは、ロナルド・コースが示唆し、後にオリバー・H・ウィリアムソンが命名した取引費用でした。法と経済学という新たな領域を切り開いたコースに、彼は自らを重ねたのかもしれませんが。取引費用とマクロ経済理論、とりわけ貨幣論とを融合するべく、彼は研究を重ねていきました。その成果は、2003年度修士論文「取引コストを考慮したマクロ理論の再考察」、そして2008年度博士論文「取引費用とマクロ経済分析—ヒックスとパティンキンの資産選択の理論を用いて—」に結実しています。博士号取得後は明治大学政治経済学部兼任講師等を務めながら、縁あって、岡本喜裕先生が中心となって運営されていたアジア市場経済学会の仕事を手伝ったり、山田久先生の企画による共著『入門ミクロ経済学』『入門マクロ経済学』の編集に協力したりする機会に恵まれ、和光大学の先生方と接点を持つことが出来ました。

そして2013年4月、皆様のお陰で、和光大学経済経営学部専任講師として着任させて頂いた次第であります。葉山先生が大変喜んでいた姿は今も臉に焼き付いております。その後のことは、皆様の方が良くご存知と思いますが、年に2回程会食する機会があり、その都度彼が貴学にて成長していく姿を垣間見ることが出来、大変誇らしく思っておりました。42歳はあまりにも早過ぎます。もっと長い生を全うし、和光大学に貢献して欲しかった。残念でなりません。この場をお借りして、葉山さんのご冥福をお祈りするとともに、6年間弱の短い期間ではありましたが、彼に活躍の場を与えて下さった和光大学の皆様に、衷心より感謝を申し上げます。有難うございました。そして、合掌。